

赤十字でつなぐ、わたしのおもい。

遺贈・相続財産寄付・お香典寄付のご案内

「自分が築いた財産を社会のために役立てたい」「故人の遺産を社会に役立ててほしい」「葬送を簡素にする分、寄付したい」「お香典の一部を寄付したい」といった尊いお申し出、ご相談が増えております。

日本赤十字社茨城県支部では、このような尊い思いに応えるため、遺贈（遺言による寄付）、相続財産、お香典による活動資金のご寄付を承っております。ご相談も随時受け付けております。

遺贈

遺言書に当支部あての寄付を記載して、
執行者に寄付を指示すること

**執行されたご寄付分は
相続税の対象外となります**

相続財産寄付

故人様から相続した資産を
当支部に寄付すること

**当支部へのご寄付分は
相続税の対象外となります**

お香典寄付

お香典から
当支部に寄付すること
**ご遺族が寄付金控除を受けられます
日赤のお礼状をご用意できます**



遺贈・相続財産寄付に関する
パンフレットをご用意しています
お気軽にご連絡ください

茨城県支部 組織振興課
Tel:029-284-1380(直通)

チャリティ終活セミナーを 開催しています

明るく終活を考える機会として、金融
や相続の専門家による「終活セミナー」
を開催しています。
次回の開催予定は、茨城県支部ホーム
ページなどでお知らせしています。



「日赤茨城」読者アンケート



◀こちらの二次元コードから専用フォームでご回答ください！
抽選で15名様に赤十字グッズ詰め合わせをプレゼント！▶
回答締切 令和8年3月31日(火) 23:59まで

※個人情報は厳重に管理し、プレゼントの送付先情報に使用するほか、
日本赤十字社茨城県支部からの各種ご案内、活動資金募集などに使用します。



商品写真は一例です。
内容・提供点数は異なる場合があります

資金の有効活用のため、この受領証をもって日本赤十字社の受領証にかえさせていただきます。
なお、本受領証は寄附金控除の申告にご使用いただけます。

払込みいただいた金額は個人については、所得税法第78条第2項第3号の規定に基づく寄付金に該当し、法人については、法人税法第37条第4項に基づく寄付金に該当します。

〒310-0914 日本赤十字社
茨城県支部 組織振興課
電話 029-284-1380(組織振興課直通)

〈ご注意〉

- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ATMではご利用いただけません。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになるときは、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ・この用紙による、払込料金は無料となります。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおところ、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

この場所には、何も記載しないでください。

日本赤十字社
茨城県支部
活動資金専用
払込取扱票

赤十字へのご寄付は任意です。
この広報紙をはじめ、赤十字からの各種ご案内は、
ご寄付を強制するものではありません。



日本赤十字社 茨城県支部

Japanese Red Cross Society

日赤茨城

Red Cross Ibaraki

2026. 冬号



広報紙「日赤茨城」 2026. 冬号

編集・発行 日本赤十字社茨城県支部 〒310-0914 茨城県水戸市小吹町2551

タイ赤十字社ユースメンバーとの交流
(制作した扇子を披露：茨城県立水戸桜ノ牧高等学校)



日本赤十字社は
2027年に150周年。



茨城県支部WEBサイト
寄付について



茨城県支部WEBサイト
令和7年度事業計画及び
一般会計繰入歳出予算

日本赤十字社は、海外の赤十字・赤新月社とのネットワークを生かして、国を超えた支援や文化交流を行っています。

茨城県支部では、今年もさまざまな交流機会をととして、海外の赤十字メンバーと県内各地の青少年赤十字（JRC）メンバーや地域のみなさまとのふれあいの機会に恵まれました。

※ JRC：Junior Red Crossのこと。

北関東三県支部マレーシア派遣



茨城県、栃木県及び群馬県の北関東三県支部は、国際理解と親善を深めることを目的として、三県共同で青少年赤十字メンバーおよび指導者を海外に派遣しています。

令和7年度はマレーシアへの派遣を行い、現地の方々との親睦を深めるとともに、日本と異なる文化に触れ、新たな発見や学びを得ることができました。

県JRCリーダーシップ・トレーニング・センターでの太平洋諸島赤十字ユースとの交流

JRCリーダーシップ・トレーニング・センターは、毎年夏休みに開催している、青少年赤十字の活動の中で最も特徴ある宿泊体験プログラムです。県内の中学生・高校生が参加し、赤十字の歴史や国際人道法の学習、救急法、フィールドワーク、活動計画づくりなどに取り組みました。参加した生徒たちはプログラムを通じて、学年や学校を超えたつながりが生まれました。

今年は特別企画として、太平洋諸島からお招きしたゲストの方々にも、現地の赤十字活動や気候変動についてお話しいただきました。太平洋諸島の文化や課題をより身近に感じる機会となりました。



タイ赤十字社 ユース受入

タイ赤十字社のユースボランティア2名を茨城県に招き、本県の青少年赤十字メンバーと交流を深めました。両国の文化や青少年赤十字の活動を紹介し、互いの理解を深める貴重な機会となりました。海外の方々とのふれあいを通じて、コミュニケーションの大切さを実感するとともに、自らの活動を見つめ直す良いきっかけにもなりました。



青少年赤十字 担当職員から

青少年赤十字では、実践目標として「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」を掲げ、日々活動しています。

今年度は、「国際理解・親善」について多くの活動機会に恵まれ、担当者である私にとりましても貴重な経験となりました。

世界で活躍する日本人の方々や、同じ志を持つ海外のユースメンバーとのふれあいを通して、本県の青少年赤十字メンバーが世界に目を向け、視野を広げていく様子を間近で感じることができました。

この経験が、将来の進路を考えるきっかけになったメンバーもいるようです。

これからも、子どもたち一人ひとりの可能性を広げる活動の場を提供していきたいと考えています。



県内赤十字施設の動き



気候変動の影響に対し、
私たちにできること
◀茨城県支部 特設ページ

水戸赤十字病院 (水戸市三の丸)



令和7年12月から、水戸赤十字病院で「無痛分娩」を開始しました。
無痛分娩は、腰から細い管を挿入して麻酔薬を注入する「硬膜外麻酔」という方法を用い、出産時の痛みをやわらげる分娩方法です。痛みがやわらぐことで心身に余裕が生まれ、落ち着いてお産に臨めるほか、体力の消耗やストレスの軽減にもつながるといわれています。

なお、現在は経産婦の方を対象に、週1件のみの実施としています。また、自然陣痛後に対応するオンデマンド分娩ではなく、事前に分娩日を決めて行う「計画無痛分娩」として実施するなど、一部制限を設けて運用しています。

今後は、対象となる方や対応可能な件数を段階的に拡大していく予定です。

当院は茨城県の地域周産期母子医療センターとして、産婦人科・小児科・麻酔科をはじめ、助産師・スタッフなど多職種が連携し、安心して妊娠・出産を迎えられる環境づくりに努めています。

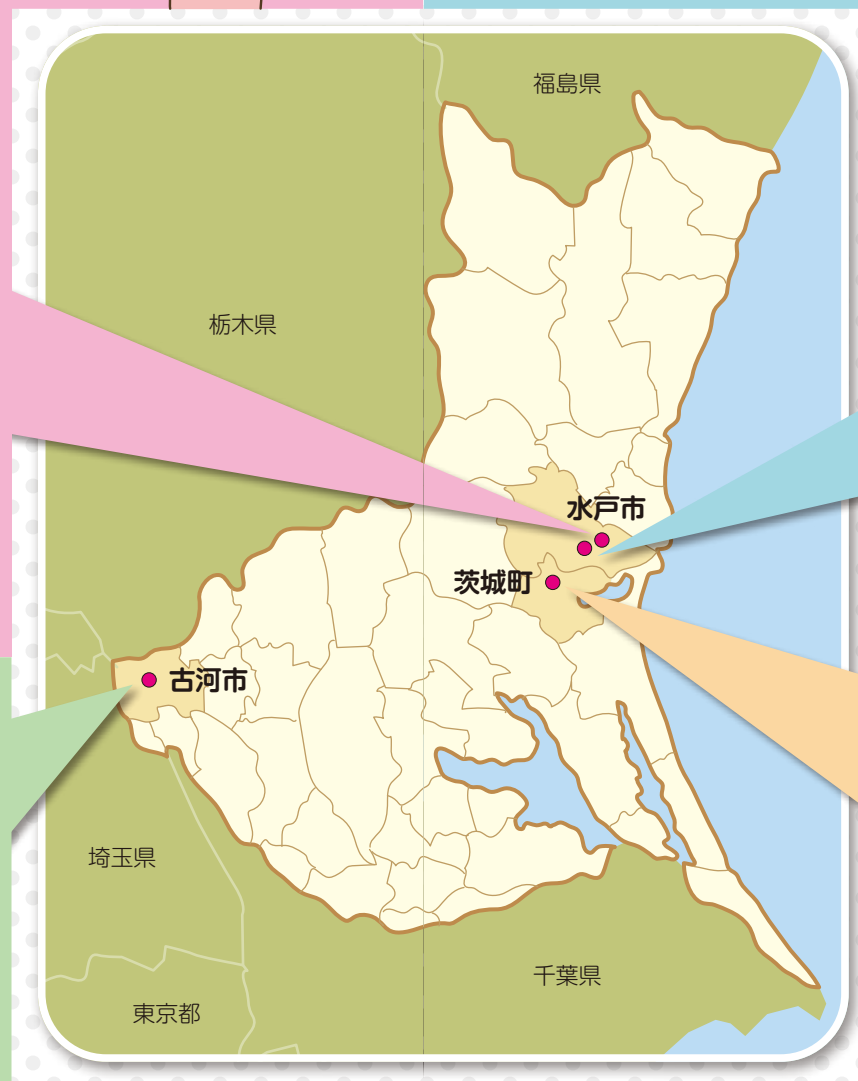
古河赤十字病院 (古河市下山町)



令和7年9月17日、船山大循環器内科部長を講師に、当院会議室で市民公開講座「狭心症・心筋梗塞治療の最前線」を行いました。この講座は市民のみなさまの健康意識向上を目的に開催したもので、古河市の方を中心に25人に参加いただいたほか、NHK水戸放送局、ケーブルテレビ古河に取材いただきました。

参加者からは「狭心症と心筋梗塞の違いがよく分かった」「生活習慣などに気を付けたい」「気になる症状があって申し込んだが、とても勉強になった。不安がなくなった」などの感想が寄せられました。

市民公開講座は令和8年2月26日にも「いつまでも自分の足で歩くために！健康寿命を延ばす『足の血管』ケア」(講師：坂野康人 院長補佐 兼 当院心臓血管外科部長)の内容で開催します。今後もみなさまの健康づくりに役立つ取り組みを続けていきます。



日本赤十字社茨城県支部 乳児院 (水戸市小吹町)



地域交流ふれあい祭り

庭の木々が色づき、心地よい秋風が吹くなか、子どもたちの笑い声が響きました。実に6年ぶりの開催となったお祭りですが、当日は天候にも恵まれ、当院の子どもたちはもちろん、巣立っていった子どもたちや地域の皆さま、たくさんのボランティアの方々にご参加いただきました。子どもたちは、的あてなどのゲームを楽しんだり、青空の下で焼きそばやポテトを頬張ったりして、元気いっぱいに過ごしました。多くの方が一緒に過ごすなかで、つながりの大切さを改めて感じた秋の日でした。

これからも地域の皆さんと心を寄せ合いながら、子どもたちの笑顔を見守っていききたいと思います。

茨城県赤十字血液センター (茨城町桜の郷)



当センターでは、若い世代に献血への理解と関心を深めていただくために献血セミナーを行っています。8月4日には茨城高校 JRC 部の皆さんが来訪され、献血バスや血液保管施設での見学を通じて、献血への理解を深めていただきました。

また8月6日に、プロバレーボールチーム「つくばユナイテッド Sun GAIA」様主催のサマーキャンプで、約400人の10代から20代の皆様に献血セミナーを実施、スポーツと貧血の関係、献血と輸血の仕組み、若年層の献血者減少など、真剣に耳を傾けていただきました。献血セミナーのご希望は当センターホームページまたは献血推進課直通 (029-246-5574) までお問い合わせください。



企業・団体のみなさまへ

赤十字支援マーク



使用イメージ

Three clear plastic bottles of ARES water are shown. The bottle in the center is slightly behind the other two. Each bottle has a white cap and a label with the ARES logo and text. The bottle on the left is labeled 'ARES', the middle one 'ARES', and the right one 'ARES'.

The screenshot shows the top portion of the JRCS website. The header features the JRCS logo on the left and the text "ECO時代を想像する Energy Company" on the right. Below the header is a navigation menu with links for "HOME", "会社概要", "事業内容", "採用情報", and "お問い合わせ". The background of the header has a blue sky with white birds flying.

いばらき赤十字法人サポーター制度のご案内

[illegible]

令和7年度いばらき赤十字法人サポーター

[illegible]

クレジットカード

口座記号番号	00		100		00	
加入者名	日本赤十字社茨城県支部					
	千	百	十	万	千	百
金額	※					
ご依頼人	おなまえ ※					
	様					
料金	料	日 附 印				
備考	免					

この受領証は、大切に保管してください。